

九. 図書館及び図書等の資料、学術情報

【現状】

(1) 図書の整備状況

医学部学生・大学院生・教職員・地域医療従事者などを利用対象者とし、医学専門書を中心に関連領域の資料を収集している。この他にビデオテープなどの視聴覚資料なども図書館資料として収集の対象となっている。

大学全体のシステム環境が整備される中で、図書館もシステム（富士通）を導入して平成10年9月より稼働し始めたことにより、学内 LAN を介し電子情報の提供も行うようになった。

OVID 社の MEDLINE・医学中央雑誌・EBMR などの二次データベース、また電子雑誌と呼ばれる一次データベースも図書館資料として収集の対象となっている。

医学図書館という性格上、全蔵書約85,000冊のうち、約69,000冊は製本雑誌であり全体の81%を占めており、雑誌の重要性を示している。

過去3年間の受入れ図書冊数はやや増加傾向であるが、医学情報のツールとしてニーズの高い医学専門雑誌は雑誌価格高騰の中にあっても可能な限り、種数の維持・管理に努めている。

[図書冊数一覧表]

(図 書)			(雑 誌)			備 考
和書	洋書	計	和雑誌	洋雑誌	計	館員数
35,537 冊	49,031 冊	84,568 冊	3,213 種	2,614 類	5,827 種	職員 3 嘱託 2 アルバイト 1
[註：雑誌はすでに製本済のものを、図書の冊数に加えた]						

[過去3年間の図書資料の受け入れ状況一覧表]

年度	平成11年	平成12年	平成13年
図書の冊数	79,082 冊	82,299 冊	84,568 冊
その年に受け入れた図書の冊数	4,743 冊	4,074 冊	4,112 冊

(2) 機器の整備状況

(ア) 施設

2階閲覧室に電動式書架（独立2層式）システムを備え、中2階には倉庫を設けており、

将来の書架スペースに利用する。閲覧席130席（グループ学習室1室含む）、視聴覚ブース6席、情報機器室にはCD-ROM検索コーナーがある。

[本学閲覧スペース等一覧表]

施設	総面積	379.53㎡	閲覧スペース	903.10㎡	閲覧座席	130席
	書庫	260.64㎡	事務用スペース	176.52㎡	建築後経過年数	4年
	その他サービススペース	394.75㎡	その他	644.52㎡		

(イ) 機器

視聴覚機器保有台数	6台
ブックディテクション	1台
電動式書架システム	1台
独立2層式電動書架システム	1台

(3) コンピュータ化状況

平成10年の大学移転にともない、図書館システム（富士通）を導入し、2ヶ月の試験運転を経て同年9月よりトータルシステムとして稼働している。また、大学・病院内のシステム環境が整備され、OPAC（オンライン公開システム）を利用して、大学すべての端末から検索ができるようになった。

単行本・製本雑誌のデータ入力は遡及時にほとんど完了している。

(4) 利用者へのサービス状況

(ア) 開館時間

通常	月～金 9:30～21:00
	土 13:00～17:00（平成15年4月1日開始）
休館日	日曜日・祝日・年末年始

(イ) 利用状況

年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度
1日当たりの入館者数	233人	109人	214人
1日当たりの入館者数（学外者）	—	0.6人	0.4人
1日当たりの貸出件数	10冊	30冊	41冊

(ウ) 情報検索

図書館員がサーチャーとなって、学外の学術情報データベースを代行検索をするオンライン文献検索は、CD-ROMやインターネットでのエンドユーザー検索が主流となったため、姿を消した。図書館で提供しているMEDLINEや医学中央雑誌のCD-ROMも、当初は研究者の利用が大半を占めていたが、カリキュラムの改正やレポート作成のため、年々学生の利用が増えている。

さらに医学中央雑誌Web版の利用など、インターネットを利用して行う文献検索の場を取り入れて利用者サービスを図っている。

(エ) オンラインジャーナル

プリント版購読に付随するサービスとしての無料オンラインジャーナル、購読誌に付随しない有料オンラインジャーナル、また、近年では各出版社が分野ごとのデータベースを作成しその情報をエンドユーザにコンソーシアム形式での提案が主流となっている。

冊子体として出版されていない文献が入手できたり、重要雑誌を横断検索ができるといった有益性・便利性が多数見受けられる反面、購読代金以外に高額な料金が発生する等の経費面での負担も生じるため本学ではコンソーシアム形式の参加を見送っている。

(オ) 他大学との協力状況

日本医学図書館協会及び公立大学協会図書館協議会に加盟している。学術情報ネットワークとともに医学系図書館間のネットワーク内でも文献の複写、図書の貸借、重複雑誌の交換、オンラインジャーナル等の購入に関するコンソーシアム結成などの相互協力を緊密に行っている。

また、国立情報学研究所NACSIS-ILLを通じての相互貸借を、ファクシミリを介しての文献受付を行っているが、近年ではファクシミリでの受付が減少傾向にある。

[相互貸借件数]

件数 \ 年度		平成11年度	平成12年度	平成13年度
相互利用件数	相互依頼(現物)	3,185(41)件	3,243(22)件	3,630(7)件
	相互受付(現物)	3,034(4)件	3,509(8)件	3,523(13)件

【点検・評価】

大学の移転にともない建物が新築され、設備も新たに整備されるとともに、大学図書館としての機能、サービスは利用者のニーズに応えるべく着実に充実されてきている。

一方、専門雑誌や蔵書の種類・冊数については専門図書館としていまだ十分であるとはいえず一層の充実が求められる。これらの情報を調べるためのツールである二次資料の整

備は十分とはいえない。また大学の社会貢献が強く求められる現在、学外者を含む利用者の拡大には予算面や管理面での体制の強化とともに、県下ならびに他大学図書館との相互連携が必要である。

【.将来の改善・改革に向けた方策】

(1) 学術雑誌

長引く景気低迷の中であって、いずれの大学図書館も厳しい財政状況を余儀なくされている。

特に外国雑誌のタイトル数については、各種図書館は危機感を募らせるところまで減少している。

このような現状のもと、図書館協会の加盟館同士が分担収集及び分担保存の呼びかけを行っているが、この取り組みの参加については、館員の作業量の増大と義務的経費が予想されるため、現時点での参加を見送っている。

最近では、出版社がそれぞれにオンライン・ジャーナル・データベースを作成し、「コンソーシアム形態」という形で大学図書館への働きかけを行っており、各図書館側が今後予算面や管理面において最善な方法を探っていく必要がある。

(2) コンピュータ

開館と同時に稼働した図書館システムは、操作面で一部不便さを感じているが、ほぼ全面的に稼働している。ただし、現在の図書館システムは国立情報学研究所（旧学術情報センター）の新CATに対応していないため、平成17年の新CAT切り替えまでにシステムのバージョンアップが必要である。

(3) 利用者へのサービス

開館時間内の利用が困難である地域医療従事者やその他多くの方々から、図書館が持っている学術情報をより有効活用するために開館時間の延長を求められていたが、平成12年6月より午後9時まで時間延長したことにより、夜間利用者にとっての利便性が図られた。また、平成15年4月1日より土曜日開館（午後1時～午後5時）を開始し、利用者へのサービス提供を行なうようになった。

和歌山県内の国公立大学図書館と公立図書館で、相互の協力により地域図書館の充実に資することの目的に、「和歌山地域コンソーシアム図書館」が平成13年10月に設立された。

全ての県民の方々に、県下の図書館が所有する蔵書の情報をご利用いただくため、今後とも、引き続きこのコンソーシアム図書館事業の推進について広報活動をはじめとし積極的に取り組んで行かなければならない。